

【GIGA×指導の工夫・改善】 生徒の主体的な学びを支えるためのクラウド環境の活用

中学校校3年・英語「The Great Pacific Garbage Patch」

クラウド環境を活用しながら生徒の学びを支援

<考察>

本時では、ごみ問題について取り上げている教科書の内容を読み、考えたことや感じたことを発表内容として動画にまとめていくという内容だった。

動画撮影機能を使って自分の発表内容を客観的に評価したり、教師がクラウド環境を使って効率よく生徒へフィードバックを行ったりするなど、一人一台端末の効果的な活用が図られた。教科の力を高めるだけではなく、一人一台端末を活用して得た情報のうち、どの情報を取り上げるのか、どの表現が話したり書いたりする上で効果的かなど、情報活用能力を育む授業にもなった。

参加者からは、「どの生徒も意欲的に、自分の考えを英語で発信しようとしている姿に驚いた」「生徒一人一人が学び方を選び、決めた学び方で主体的に取り組むことができていた」等の感想をいただいた。日常的に、生徒に学習方法や学習形態を自己判断・自己選択する機会を提供してきたことで、生徒一人一人の学習意欲が高まり、主体的に課題に向かうことができたと考えられる。

今後は、「相手意識」をより強くもたせるために、タブレットを補助的な役割とし、対人でのやりとりも大切にしながら授業をデザインしていく。



①自身の発表を客観的に評価

自分が発表する内容を一人一台端末の動画機能を使って撮影。撮影された動画を見返すことで、自分の発表を客観的に評価することができた。自身の課題や、改善のポイントを明らかにすることができた。また、クラウド上から友達が撮影した動画を見ることもでき、自身の発表に生かすこともできた。

②クラウド環境を使い即時にフィードバック

教師は授業中、クラウド上で生徒の提出物を確認し、コメントを残したり、修正したりしていく。教師が朱書きしたものをクラウド上で生徒に送ることで、生徒は即時に改善点を把握し、1時間の中で教師からのフィードバックを生かしながら、学習改善を図ることができた。



③教師のファシリテーション

生徒の学習状況を把握しながら支援を行っている。生徒同士では解決が難しい場合や、前時までの学習状況から声掛けが必要だと考えられる場合等は、教師が積極的に支援に入る。さらに、生徒が考えていることを言語化して学びを促したり、ペア学習の橋渡しをして学びをサポートしたりして生徒を支えている。